

浄土寺だより

浄土真宗本願寺派
石見真宗根本精舎

ともしび



令和5年11月号 Vol70 発行日 231111

〒699-4621

島根県邑智郡美郷町粕淵354

浄土寺 門信徒会

TEL 0855-75-0064 FAX 0855-75-0264

月

十一月(二十二日) 報恩講

親鸞 苦勞 徳

念仏申 報恩講

十二月(十六日) 歳末法座

私私見捨

見捨

一月(十五日) 御正忌法要

阿弥陀 今

時悲時

二月(十六日) 初法座

心

身 仏法 聴聞

三月(二十日) 春彼岸法座

別離 涙

俱会一処 浄土

四月(二十一日) 永代経法要

秋尊 出

阿弥陀 大悲 遇



リンはうつ
叩くのですか？

お参りに行くとき、よく小さいお子さんがお仏壇の前にはわんわん(棒)はちん(きん)リンの(こ)を叩く姿を目にします。とても微笑ましい姿なのですが、正式にはリンを叩くのはおつとめ(勤行=読経)の時のみです。お仏壇のお道具の一つであるリンは、お経を読むときの合図としてあります。ですから、手を合わすだけでお経を読まないときはリンを打つ必要はありません。お仏壇に線香をあげて合掌礼拝するだけの時には、リンは叩かないのです。

また、よく、お仏壇の前に座したら、まるで、仏さまに「こちらを向きなさい」と云わんばかりに、むやみやたらにリンをチンチンと鳴らす人がいます。仏さまに注意を促すのは、本末転倒です。私たちが仏さまから、日夜、お念仏しなさいよと願われているのです。

おつとめの経本をあけると、経文や偈文の右上にまる印が付いています。一つ一ついければ一回、一つならば一回、その箇所でのリンを打ち鳴らします。リンを叩くのは、おつとめがはじまる合図であり、音階に合わせています。おつとめをしない時は、リンは鳴らさないようにしてくださいね。



ペンペン法話

「石見の才市さん」

住職 西原真公

先月、佐波組の仏教婦人会で大田市温泉津町の安楽寺様へ参拝してきました。佐波組の仏教婦人会は現在二つの婦人会しかありません。年々会員数が減少して活動ができにくくなる中で、会員同士の親睦を深めようとの思いから、何か活動をしよう、以前から考えていました。しかしコロナが流行り、互いに何もできないまま、時間が経ち、やると全国的にも規制が穏やかになつたこともあり、今年度から一日研修旅行の企画が進みました。

旅行といつても県内を行くぐらいしかできないので、『まずは妙好人を訪ねよう!』と言うことになり、今 私心がやすくして頂いている安楽寺様にお願ひすることになりました。安楽寺のご住職様とは三年前から大田から浜田まで会員が在籍している宣教会という任意団体の布教団があり、その幹事の役目を任されてきました。いつも一緒にお世話をしていましたので連絡もスムーズで、すぐに日取りが決まりました。また坊守も世界仏教婦人大会が京都であり、その時安楽寺の坊守様とも親しくさせて頂いたことでした。よつて、なおよさら安楽寺様に行くことが楽しみとなりました。

安楽寺は才市さんの家の近くにあり、いつもお参りしていたお寺です。そこでご住職から才市さんの

生涯を詳しくお話し頂きました。実は私、才市さんの話はお説教で聞か、本で読んだくらいで、知っているようで詳しくは知りませんでした。話を聞き終わり、実際の才市さんは私がイメージしていた才市さんとは良い意味でだいぶかけ離れた姿でした。

今まで才市さんはもつと積極的な方だと思つていましたが、しかしお聴聞には積極的でしたが実はおとなしく、恥ずかしがり屋な方だつたそうです。才市さんが書き残したノートも最初は何度も住職から頼まれても書かなかつたそうです。業を煮やし住職がノートを買つてきて渋々書き移したくらいです。それまではカンナくずや下駄の切れ端に書いては燃やしていたそうです。“人に読んでもらうものではない”という思いからでした。

才市さんの肖像画が安楽寺に展示しています。ツノの生えた才市さんの肖像です。この絵は才市さんが七〇歳の時、温泉津出身の画家 若林春暁師に書かせたものです。初めツノはなかつたそうです。が、才市さんがどうしても書いてくれと頼み込んだそうです。それには、周りから才市さんはいろんな お寺に聴聞して『立派だ、りっぱだ』と言われるのが恥ずかしく、『立派じゃないからお寺に参るのだ』と言つても誰にも分かつてもらえなかつたからだといわれています。“鬼が仏とならせて頂く、こんな嬉しいことはない”と喜ばれました。肖像画にはツノはあるが顔はもの凄く温和で優しい顔をしています。温泉津の温泉街には才市さんの銅像がありますが、普通の観光客がその銅像を見ると、たいがい不思議に思うそうです。角の生えた姿は鬼の姿でもあり、いつも顔は怒つていなくてはならないのに穏やかなの

が不思議だと。または「心にツノがあるから修行して取りなさい」と受け取る人もいるそうです。しかしツノの姿とは「ツノがあつても救つてくださる」「いや」「ツノがあるからこそ救わずにはおられない。そのお心が阿弥陀さまのおころだ」「才市を仏にしてくださる」と喜ばれたのが浅原才市さんでした。

心 邪見
身 ヤ
角 生

安楽寺の境内に才市さんの歌の碑があります。

才市 御

今もコロナやインフルエンザが流行つています。私の口から出てくるのは 咳であろうか、お念仏であろうか。
お恥ずかしい次第であります。



門信徒会会費値上げについて

門信徒会会長 門手 功況

昨年からの懸案であった門信徒会費について、令和6年より4,000円から5,000円とする... 経済状況を鑑みると会費を上げることはとても心苦しく、申し訳ない気持ちでいつばいですが、急激な高齢化と門徒減少により寺院の管理運営が大変苦しくなつてきております。...

浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金

子どもたちの笑顔のために募金

「ハワイ・マウイ島大規模火災 災害義援金」について 本年8月8日(日本時間8月9日)、米ハワイ・マウイ島の山火事に起因する大規模火災により、島西部ラハイナがほぼ全焼するなど甚大な被害が発生しました。...

初参式 五月二十一日(日)

宗祖降誕会法要(親鸞さまのお誕生お祝い 法座に当たり浄土寺 本堂に於いて浄土寺 間信仏教婦人会の主 催で、(赤ちゃんから二 歳くらい対象)が五月 二十一日(日)に行わ れました。

少子化が進み参加者がおられるのか不安はありましたが、何とか開催できました。赤ちゃんの手形足形の記録採取やお勤めがあり、みんなでお祝いしました。今年三宅 暁士(みやけ あかし)ちゃん、井上 莉瑚(いのうえ りこ)ちゃん、二名のお参りでした。有難うございました。



第11回グラウンドゴルフ大会

浄土寺のグラウンドゴルフ大会も11年目となりました。これまで一度も雨が降らなかつたのですが、今回6月に予定していたグラウンドゴルフは大雨で延期となり、日を改めて7月25日(火)に開催しました。...

休憩をとりつつ、楽しくプレー出来ました。毎回初心者の方も参加頂き、ベテランさんの中に混じって和気あいあいと親睦も深められました。表彰式、閉会式は浄土寺本堂で行い、向拝(ごはい)で記念撮影。優勝は初参加の門田辰夫さんでした。回を重ねる度に新しい参加者も加わり、賑やかになっていきます！



佐波組夏休み仏の子の(ご)い

8月19日(日)、今年ぶりの佐波組子ども会を開催できました。しばらく開催できなかつたので、参加人数は5名と少なかつたですが、元気一杯遊び学ぶことができ充実した子ども会でした。今年も羽釜を使いみんなでご飯を炊きました。今回は火を起すところから始め、四苦八苦しながらも30分かけて点火でき、炊き上がったご飯も格別に美味しかったです。...



第7回浄土寺ゴルフコンペ開催へ

10月13日(金)、秋晴れの中、美郷町内の方が多数参加頂き、総勢19名で浄土寺ゴルフコンペを開催しました。閉会式・表彰式は浄土寺本堂で行い、終了後庫裡へ。今年は4年ぶりとなる懇親会もできました。皆さんゴルフの反省やお酒の飲み比べなど、楽しく大いに盛り上がりました。優勝は田中義晴さんでした。幹事の土居さん、お世話ありがとうございました。来年もたくさんのご参加をお待ちしています！



佐波組仏婦研修旅行

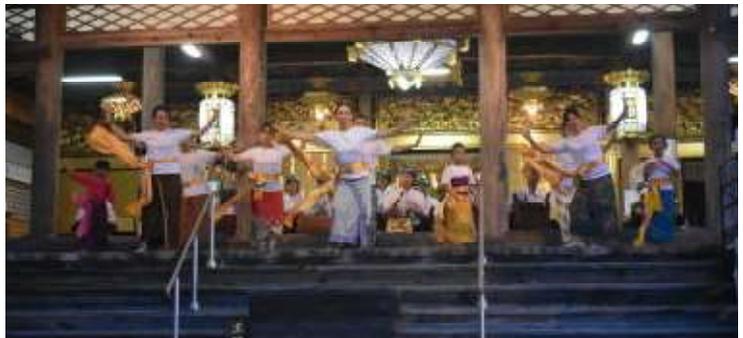
佐波組仏婦決連盟ではお互いの単位会の親睦を深めることを目的として、今年から研修旅行を開催することになりました。今回は18名で温泉津の安楽寺様にお



参りました。安楽寺様は妙好人の浅原才市さんのお手次ぎ寺で、才市さんの資料が展示されていました。ご住職様からは才市さんの生涯を分かり易くお話しして頂き、また才市さんの家にも案内してもらい、とても親切にしてくださいました。お昼は温泉津ふれあい館で食べ、とても実りある研修でした。皆さん喜んでいました。

粕洲歴史ロマン夜市

昨年、直前で中止となった粕洲の歴史ロマン夜市。主催は粕洲連合自治体ですが、浄土寺も本堂、境内を開放して、『感じるお寺』として本堂でガムラン(バリの音楽)の演奏と境内では竹灯籠を灯しました。竹灯籠は門信徒会の役員の方が設置と片付けをして頂き、浄土寺も一丸となつてロマン夜市を盛り上げました。ガムランの演奏は向拝で行い、とてもスケールの大きい演奏となりました。美郷のガムランは舞踊もあり、見応え充分です。ほかに今回はコスプレヤーの方も参加してもらい、一層盛り上げてくれました。



これからの主な行事

- 令和五年度
- 十二月 歳末法座(十六日)
- 大晦日(三十一日)除夜の鐘つき 晚十一時半から
- 令和六年度(2024年度)
- 一月 元旦修正会(元旦)年始 午前十一時より
- 総代会(三日)
- 御正忌(十五日) (十六日)
- 二月 初法座(十六日) 仏婦総会(二十五日)
- 常任委員会
- 三月 春彼岸法座(二十日) 門信徒会役員会
- 四月 永代経法要(二十日、二十一日)窪田英俊師
- 門信徒総会 二十一日 十時
- 五月 降誕会法座(十九日)初参式
- 九月 秋彼岸(二十二日)前任職前坊守追弔法要
- 十月 芋法事(十六日)仏婦例会も兼ねる
- 十一月 報恩講(二十日、二十一日)菅 知尚師

永代経懇志進納の方々

- 【令和五年(一月五呂現在)】
- (令和五年四月から令和五年十一月まで)
 - 釋弘誓(俗名：泉芳弘)施主 石原 泉 浄恵 殿
 - 釋照春(俗名：山本春代)施主 オケ原 渡辺正枝 殿
 - 釋了義(俗名：森本義雄)施主 共栄 森本紀男 殿
 - 釋博道(俗名：中島鎮博)施主 広島 中島志津子 殿
 - 釋慈恩(俗名：大草訓子)施主 湯抱 大草 寛 殿
 - 慈廣院釋智信(俗名：山中廣)施主 大田 山中 廣 殿
 - 忝なくお受けし教化の資とさせて戴きます
 - 永代経懇志とは故人が今生でお念仏に遇い、往生の素懷を遂げた証(しるし)証であり、この境涯での形見を上置きとして遺(のこ)す意味であります。